

科目名	科目種別	授業番号		時期	曜日	時 限	単位数
		博士前期	博士後期				
博士人材のアカデミック・コミュニケーション	大学院 全学共通科目	W0520	W0620	集中 Ⅲ期	—	—	1
担当教員	備考						
伏木田稚子、各教員(大学教育センター)	本科目により修得した単位は、課程修了単位に含めることはできない。						
①授業方針・テーマ	<p>大学院生にとって、自身の研究プロセスや成果を発表し、他者からのフィードバックにより内容をより充実させていくことは、実りある研究生活に必要な不可欠です。また、在学中だけでなく就職後は特に、専門分野や年代の異なる人たちとアイデアを共有し、相互理解を深めながら協働する姿勢が求められます。</p> <p>そこで本授業では、各自が日頃取り組んでいる研究を題材に、プレゼンテーションの実践と研究計画書案の作成に取り組みます。それらの活動を通して、アカデミック・コミュニケーションに関する知識とスキル（日英両語での論理的でわかりやすい発表、他分野研究を含めた相互理解、社会との接続を意識した学際的な視点）の習得を目指します。（博士後期課程への進学に関心がある、前期課程の学生の参加も広く歓迎します。）</p>						
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自身の研究の専門性について、日本語と英語で論理的に説明する力を身につける 自身の研究の応用可能性を熟考し、わかりやすく表現する力を身につける 他者との議論を通して、他分野研究への理解を深めると共に、自身の研究を分野横断的な視点から捉え直すことができる プレゼンテーションの実践と研究計画書案の作成を通じて、自身の研究と社会とのつながりを学際的に考えることができる 						
③授業計画・内容 授業方法	<p>【日本語プレゼンテーション】</p> <p>第1回 4/27（木）4限 プレゼンテーションの構成、PowerPoint を活用したスライドの作成 [個人ワーク]</p> <p>第2回 5/25（木）4限 グループ内での発表、ルーブリックによるピアレビュー [グループワーク]</p> <p>第3回 6/15（木）4限 全体での発表、ふり返り [全体ワーク]</p> <p>第4回 7/13（木）4限 英語プレゼンテーションに向けた準備 [個人ワーク]</p> <p>【英語プレゼンテーション】</p> <p>第5回 7/27（木）4限・5限 全体での発表、教員（英語のネイティブスピーカー）からのフィードバック（前半） [全体ワーク]</p> <p>第6回 8/03（木）4限・5限 全体での発表、教員（英語のネイティブスピーカー）からのフィードバック（後半） [全体ワーク]</p> <p>【研究計画書案の作成】（11月～2月）</p> <p>※日本学術振興会特別研究員の申請書を教材として活用する。 ※開講日程は別途案内する。</p> <p>第7回 特別研究員（DC・PD）の制度概要・目的、申請書作成のポイント [講義]</p> <p>第8回 申請書案の作成、ピアレビュー [グループワーク]</p> <p>第9回 添削・講評 [全体ワーク]</p>						
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションの準備、研究計画書案の作成等については、授業時間外に各自で取り組むことを前提とする。 企業等に対してプレゼンテーションを行う場合は、当該企業の事業概要を事前に把握しておくこと。また、社会人としての基本的なルールおよびマナーを守ること。 						
⑤テキスト・参考書等	<p>■参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮野公樹（2009）学生・研究者のための使える！PowerPoint スライドデザイン—伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術。化学同人，京都 中澤明子，市川絃子（編）蔣研，木下慎，中原淳（著）（2017）ストーリーで学ぶアカデミック英会話 ENGLISH ACADEMIA。朝日出版社，東京 						
⑥成績評価方法	プレゼンテーション、研究計画書案、受講生間での議論などにより、総合的に評価する。						
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	<p>問合せ内容に応じて以下のメールアドレスへ連絡し、必要に応じて対面相談を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 伏木田 稚子（プレゼンテーション関係） fushikida-wakako@tmu.ac.jp 総合研究推進機構担当 URA（特別研究員申請書関係） soutsui_spring@jmj.tmu.ac.jp 教務課教務企画係（履修手続関係） kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp 						

⑧特記事項

- 本授業でのプレゼンテーションの成果を活かすため、自身の研究内容を紹介する機会が設けられている次のような企画に、授業外で参加することを推奨する。
例：
 - 研究の見える化セミナー（仮称）（主催：本学総合研究推進機構 時期未定）
 - 理系大学院生海外研修プログラム（主催：本学理系4研究科 7～11月頃）
 - 博士人材と企業との交流会（主催：お茶の水女子大 9月頃）
 - キャリアパスフォーラム（主催：横浜国立大学 10月頃）
 - 高大連携企画での研究紹介（主催：本学高大連携室）等
- 各種研究プレゼンテーション企画の情報については、キャリア支援課の博士後期課程向けキャリア支援情報のホームページ (https://career.tmu.ac.jp/for_doctoral/) や学内掲示等を参照すること。
- 各企画への参加については、希望するものに各自で応募すること。参加資格が博士後期課程の学生に限られるものもあるため、各企画の応募資格に注意すること。
- 発表や演習を行う授業形態のため、履修希望者多数の場合には人数を制限する場合がある。